

富士養鱒場だより

第209号

平成23年1月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://www6.shizuokanet.ne.jp/fujimasu/>

興津川のアユ遊漁者アンケート調査結果(平成22年度)

静岡県には多くのアユ漁場がありますが、近年、遊漁者人口の減少が目立ちます。遊漁者人口の減少は漁協経営を圧迫し、河川漁業を消失させかねません。そこで今回、遊漁者の意識やニーズを調査しました。報告に先立ち、本調査にご協力頂いた興津川漁協並びに遊漁者各位に深謝します。

方法

静岡市に位置する興津川において、遊漁期間中の5～10月にアユ釣りを行っている1200人の遊漁者を対象に調査しました。設問は性別、年代、住所、釣獲状況、種苗放流に関する意見などとし、現場で官製ハガキを配布してデータを収集しました。

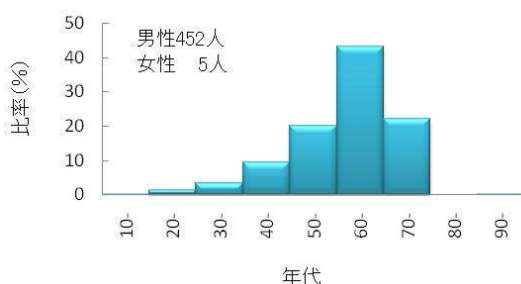
結果

(1) 回収率

配布した1200枚のうち489枚(40.8%)が回収され、457枚から有効な回答が得られました。

(2) 年代別遊漁者組成

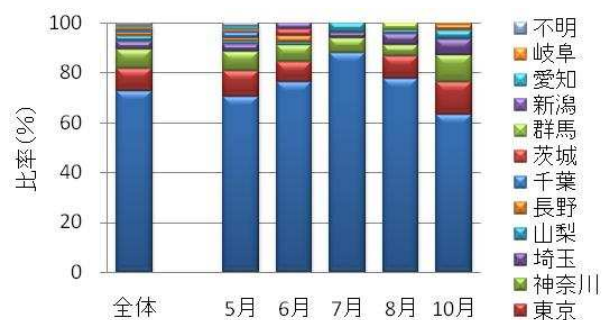
60代の遊漁者が43%と最も多く、高齢化率(60歳以上の割合)は65%に達しました。女性遊漁者はわずか1%でした。



(3) 都道府県別遊漁者組成

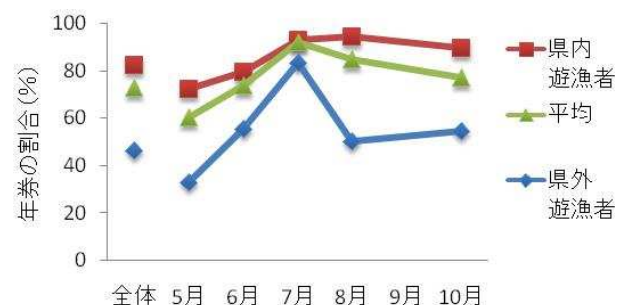
4人に1人は県外遊漁者であり大半は関東圏の方でした。また、5月と10月に県外遊漁者の割合が高くなっていましたが、この時期は県外の多くの河川で禁漁期間中にあたることで影響している

ようでした。なお、県内遊漁者は、興津川の近隣市町で9割を占めました。



(4) 年券遊漁者の割合の推移

解禁直後は年券での遊漁者が少なく7月が最多でした。年間を通しては、県外遊漁者の46%、県内遊漁者の83%が年券で遊漁を行っていました。



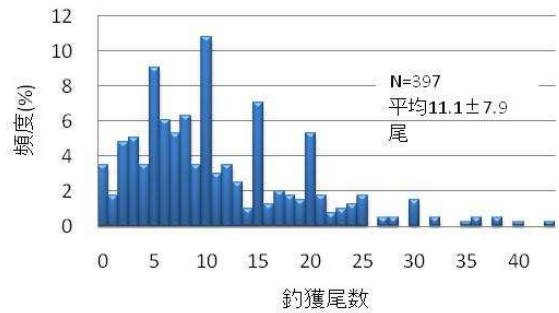
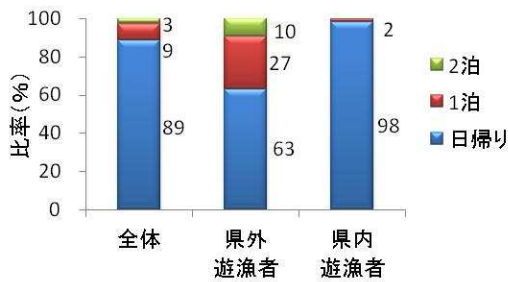
(5) 交通機関

97%の遊漁者が乗用車で移動しており、自転車や徒歩などの利用はごく僅かでした。

乗用車	自転車・徒歩	電車・バス
97.4%	2.4%	0.2%

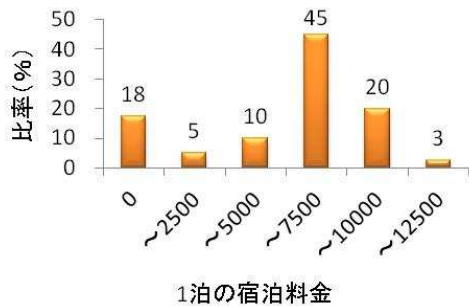
(6) 宿泊数

1割の遊漁者が宿泊をしており、これらの多くは県外遊漁者でした。



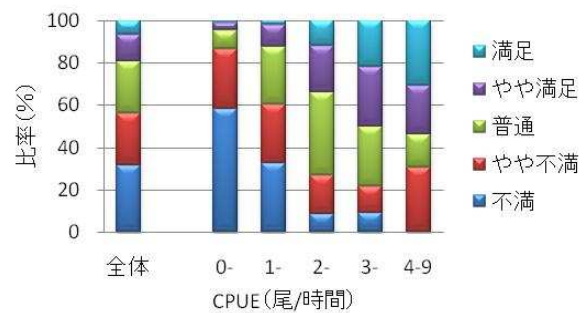
(7) 宿泊料金

1泊の宿泊料金は5000～7500円が45%で最も多いものの、車中泊などで費用がかかっていない方も18%いました。



(11) 満足度

CPUEが高いほど満足度が高い傾向にありました。一方、図には示していませんが、釣獲アユの大きさが満足度へ与える影響は小さいと思われました。



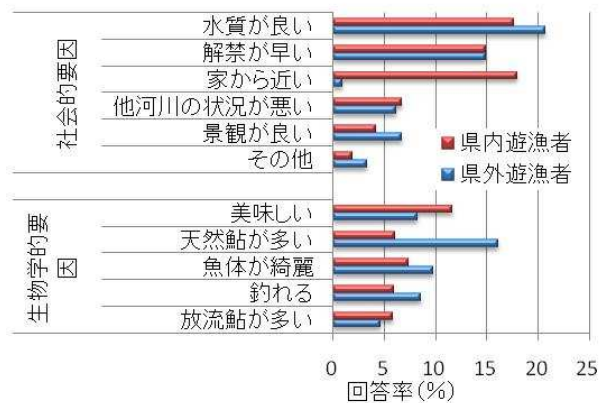
(8) 釣法別の遊漁者数の割合

87%の遊漁者が友釣を行っていました。



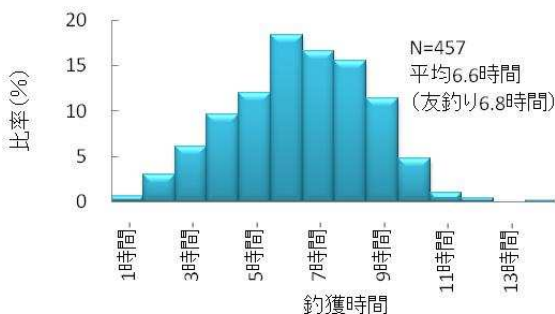
(12) 興津川の選択理由

水質が良いこと、解禁が早いことが大きな魅力と考えられました。また、県外遊漁者には天然アユが多いことも大きな魅力のようでした。



(9) 釣獲時間の組成

日中のほぼ全てを釣りに費やす方が多く、平均6.6時間（友釣りのみでは6.8時間）でした。

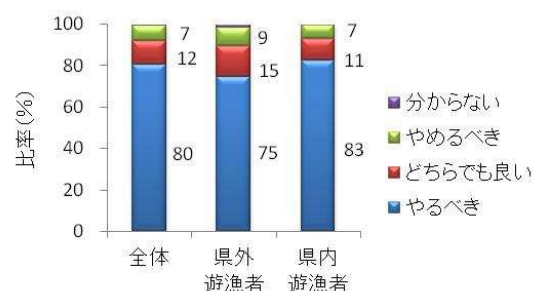


(13) 種苗放流の是非

放流をすべきとの意見が8割を占め、放流=釣れるとの意識が遊漁者に広く浸透していました。

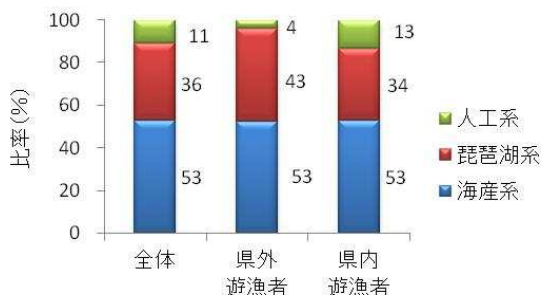
(10) 友釣りにおける釣獲尾数

0~43尾の範囲にあり平均11.1尾でした。なお、掛釣の平均釣果は21.8尾であり、より多くのアユを釣獲していました。



(14) 好きな放流種苗

好きな種苗は海産系が 5 割、琵琶湖系が 4 割、人工系 1 割となっていました。



まとめ

今回の調査を通して、遊漁者の意識やニーズが把握できました。興津川の場合には、水質を良好に保つこと、早い解禁であること、天然遡上を良好に保つこと、駐車スペースを確保することなどが重要と思われました。また、産卵期が遅れる今日においては、10月以降の晩期のアユの活用も遊漁者を増やす大きな武器になると思われました。

本調査は平成 23 年度も実施予定です。皆様のご協力をお願いします。

(鈴木邦弘)

トピックス

矢辺立夫氏が静岡県「ふじのくに食の都づくり仕事人」として表彰される

静岡県は、「ふじのくに食の都」づくりの一環として、静岡県産の食材を積極的に活用し、本県の農林水産業の振興に貢献している料理人の方々 200 人を「ふじのくに食の都づくり仕事人」として平成 22 年 11 月に表彰しましたが、その一人として、鱒の家（代表取締役総料理長）の矢辺立夫氏が表彰されました。

矢辺氏は、おいしいニジマスを使った多彩なメニューでその魅力を、長年、富士宮から発信してきました。最近では地食健身食育推進事業や魚食教育に協力し、中学生のニジマス調理実習やレシピ作り活動にも積極的に支援を行っています。

今後も、料理人の技と英知をも提供しながら、ニジマスをはじめとした地元の恵みの消費拡大と食を通じた都づくりのために活躍することが期待されています。



表彰された矢辺立夫氏

(川合範明)

交流大会に芝川漁協が参加

12月3日、県と静岡県漁業協同組合連合会が主催の静岡県青年・女性漁業者交流大会が静岡市で行われ、芝川観光漁業協同組合アマゴ研究会の長谷川三男さんが発表しました。

発表の表題は「芝川の魚を守るために」で、手作り飼育池での放流用アマゴの飼育や、子供たちへの啓発活動と、芝川の「原種アマゴ」を守るための取り組みについて紹介しました。

今まであまりなかった活動ということで、来場者の関心も高かったように感じました。

(岡田裕史)



出前授業に行ってきました

平成22年11月19日と12月9日に富士宮西高校のSPP事業の一環で出前授業に行ってきました。これは、ニジマス養殖を通じて生物の授業内容が産業へ活用されていることを紹介し、学習の意義や有用性について理解を深めてもらうため開催されたものです。

1回目はニジマスの解剖と人工授精の実習、2回目はニジマスの染色体操作技術についての授業を行いました。実習では2kgサイズのニジマス親魚を解剖しましたが、生徒たちはその大きさに驚きながらも四苦八苦して解剖バサミを扱っていました。これを通じてニジマスにもっと



親しみをもっていただけたらと思います。

(鈴木基生)

富士養鱒場の湧水と気象

月	天候（午前9時）：日数						降水量 （降水日数） ：mm（日）		湧水量：万t/日	
	快晴	晴	曇	雨	霧	雪	22年	20年平均	22年	20年平均
10	1	11	13	5	1	0	231(12)	246(10)	7.9	8.2
11	4	20	5	1	0	0	135(4)	160(6)	6.1	6.2
12	6	17	6	0	0	1	150(10)	69(5)	5.2	5.2

日誌

- 10月 1日 富士宮市立第一中学校11名来場
- 4日 太田川漁協芦ノ湖ヒメマスふ化場視察(神奈川県)
- 7日 河川魚類調査(伊東市)
- 8日 富士宮市立西富士中学校1名来場
河川魚類調査(富士市)
- 11日 富士宮市立貴船小学校PTA研修部50名見学
- 12日 河津川アユ産卵場造成指導(河津町)
- 13日 県立富岳館高校6名来場
- 14日 大北漁協連絡協議会25名視察
- 21日 全国養殖衛生管理推進会議(東京都)
静岡市立井宮小学校82名見学
- 22日 地財事業調査委員会(富士宮市)
- 25日 韓国江原道立大学28名見学
- 28日 内水面関係研究開発推進会議資源・生態系保全部会、
内水面養殖部会(～29日、長野県)
富士宮市立第二中学校11名来場
- 11月 4日 水産研究発表会(焼津市)
- 8日 東海北陸地区内水面関係地域合同検討会(石川県)
- 12日 溪流魚調査(浜松市)
- 19日 県立富士宮西高校出張授業(富士宮市)
- 25日 太田川アユ流下仔魚調査指導(袋井市)
- 26日 河津川漁協研修会(河津町)
- 29日 水産振興審議会(静岡市)
- 12月 1日 太田川ダムヒメマス発眼卵導入(森町)
- 2日 溪流魚調査(伊豆の国市)
魚病症例研究会(三重県)
- 3日 静岡県青年・女性漁業者交流大会(静岡市)
- 7日 富士宮市立富丘小学校127名見学
- 9日 県立富士宮西高校出張授業(富士宮市)
内水面関係研究開発推進会議(栃木県)
- 13日 狩野川アユ流下仔魚調査指導(伊豆の国市)
- 19日 伊東河川魚類調査報告会(伊東市)
- 28日 仕事納め